

1 開会

2 土屋市長あいさつ

本日は第3回目となります上田市総合教育会議を開催しましたところ、峯村教育長をはじめ教育委員の皆さま方にはご多忙の中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

昨年のこの時期には新型コロナウイルス感染症予防対策として、様々な対応が求められてきており、今もなお続いているところですが、市民お一人おひとりの日頃からの予防の実践に、心から感謝申し上げます。引き続き、取組の継続をお願いしたいと思っております。

市としましても「ワクチン接種」などの準備も重ねておりますので、対応をしっかり取り組んでいかなければいけないと感じております。

さて、本日の会議では、これまで協議を重ねてまいりました「上田市教育大綱」と「第3期上田市教育支援プラン」の改訂版の策定について、最終の御確認をお願いしたいと考えております。

教育大綱につきましては、上田市の教育理念として掲げた「燦と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」を継承し、これまでの構成や内容等は大幅な変更をせず、総合計画「後期まちづくり計画」との整合を踏まえた修正としております。

また、教育支援プランについては、GIGAスクールへの対応やICT化の流れなど、必要な見直しを加えるとともに、学校現場からの御意見が反映されておりますので、それぞれ御確認をよろしく願いいたします。

いずれも、来年度から新たにスタートする重要な方針・プランであり、本日の最後の議題としております。令和3年度の当初予算と重点施策の中でも、スマートシティ構想に関連した内容など報告もありますので、教育、生涯学習、スポーツ、文化芸術など、教育委員の皆様と情報を共有する中で、各種施策の一層の推進が図られることを願っております。

本日の会議の場で委員の皆様から御意見や御提言をお聞きして、今後、さらに教育委員会と市長部局の連携を深めながら、「上田市教育」の方向性を確認し、また、将来を担う子どもたちのために情報共有が図られることを期待しまして、簡単ではございますが、日ごろの皆様方の御尽力に感謝を申し上げ、私からのあいさつとさせていただきます。

3 峯村教育長あいさつ

今年度、第3回目となります上田市総合教育会議の開催にあたり、一言あいさつを申し上げます。

日頃から、土屋市長には、上田市の教育行政発展のため、多大なる御支援、御協力をいただいております。心から御礼を申し上げます。

今年度も残すところあと僅かとなりました。市内の中学校、小学校ではそれぞれ17日、18日に卒業式が行われます。

この一年、新型コロナウイルス感染症によりまして、学校では諸行事の見直しなど、子どもの学びを保障するためにさまざまな工夫の連続でございました。子どもたち自身も、窮屈な思いを

感じていたと思いますが、気持ちを切り替えて柔軟に対応しながら成長を続けていてくれます。教育委員会としては、このような子どもたちの成長を、さまざまな施策をとおして、しっかりと支援してまいりたいと考えております。

本日は、前回に引き続き、上田市教育大綱と第3期上田市教育支援プランの策定について、土屋市長と意見交換・協議の機会をいただきました。

また、令和3年度の当初予算の概要や、市の重点施策の一つである、スマートシティ化推進計画についても情報共有をする機会をいただきました。このように教育分野にとどまらず、市全体の施策について、情報共有や意見交換をすることは、今後の教育行政を展開する上でも重要なことであると考えております。

本日の会議も市と教育委員会が一体となって教育行政を推進するための意義ある会議となりますことをお願い申し上げまして、私からのあいさつとさせていただきます。

本日も、どうぞよろしくお願いいたします。

4 会議事項

(1) 上田市教育大綱(改訂版)の策定について

●柳原政策企画部長(事務局:政策企画課担当)

資料1をもとに、教育大綱の改訂の内容について説明

※第2回会議までに委員から寄せられた部分の文言修正など

●柳原政策企画部長

この件について、皆さんから御意見がありましたらお願いします。

●横関教育委員

この1年、コロナ禍「生きる力」とは何かを、子どもたちも先生方も考えてきた年だったが、今後、本当の意味で「生きる力」を育むため、それを育てていくためにどうしたら良いか、市民と一緒に子どもたちの「生きる力」を育てていけたらと思える大綱の内容になっていると思う。「生きる力」を前面に出してもらえたことが良かったと思う。

●北沢教育委員

大綱の「文化芸術」分野の修正箇所について、「喜び」のあとの文言の助詞は「が」が良いと考えるが、どのような検討がされたか、事務局の考えをお聞きしたい。

●事務局:政策企画課担当

前回の会議でも指摘をいただいた部分であり、確認が充分では無かったところもあるので、文言を修正して、最終の成案とさせていただきたい。

(2) 第3期上田市教育支援プランの策定について

●緑川学校教育課長

資料2をもとに、教育支援プランの改定の内容について説明

※第2回会議で委員から寄せられた部分の修正、市内小・中学校からの修正点など

●柳原政策企画部長

ただ今の説明につきまして、御質問や御意見がありましたら、よろしくお願いたします。

●北沢教育委員

支援プランの方向は良いと思う。ただ、5ページの内容の位置づけの意図が分からない。書き方についても、「方策・施策・取組」があって「目的・目標」を書いているものと、そうでないものが混在しているため、読みにくい状況になっている。どうやったら「目的・目標」を達成できるのかが分からない文章が多い。このページは必要ないものと考えている。

●学校教育課長

ご指摘のとおり、4ページの支援策の部分と、6ページ以降の成果目標や展開の部分と重複するところも多くあるものと承知している。前後のページと照らし、書き方が違っている部分もあるような状況でもあり、5ページについては削除しても良いように感じている。

●北沢教育委員

同じく5ページで、基本施策1の2点目にある「学びや理解」という表現については、「理解」は「学び」に含まれるので、「理解」の文言は削除すべきである。いつも言うが、大きな括りと小さな括りを並列で書くことが無いよう、言葉の意味を理解して書いてもらいたい。

今回の件は、5ページを削除してもらえれば、それで良いと思う。

●森田教育委員

9ページの「ICT 活用」の部分について、タブレットなど道具を使うことが「ICT 教育」では無く、どういう形で授業を進めて行くか、また、ICT を使うことによって授業が「どういう風が変わって、どういう効果を導き出すか」といった根本的な議論が進んで確立されていないので、重要なことが記載されていないように思う。前回も一例として「STEAM 教育」の話をしているが、横断的なカリキュラム体系で進めて行くというような具体的な取組など、方向性を検討することが重要と考える。

それと、13ページの「キャリア教育の推進」について、従来は「職業的自立」が主たる内容で進められてきて、職業体験などを中心とする捉え方だったが、昨今では「社会的自立」と捉えられるようになっている。文部科学省でも「キャリア教育」は「生きる力の育成」と示されていることもあり、令和7年度までの支援プランの中でも、主な施策の展開の中に位置付ける必要があるため、再検討をお願いしたい。

●学校教育課長

9ページについては、具体的な事業の記載が無いとのご指摘で、以前にも委員の皆さまにGI GAスクール構想を踏まえて、現在、考えている事業案として説明をさせていただいているが、今後、4月以降に本格稼働する中で、児童生徒が楽しく、分かる授業となるよう進めて行きたいと考えている。具体的に一つひとつの事業は載せず、タブレットなど ICT ツール(道具)として使用することについて記載させていただいている。

13ページの「キャリア教育の推進」については、委員のお考えもあろうかと思うが、今後の取組の中で検討したいと考えている。

●森田教育委員

令和7年度まで続く支援プランであり、大きく変わっていくことが予想される。具体的な案が無くとも、どういうところを目指して行きたいかという考えは、しっかり盛り込んでいてもらいたいと考えている。

●横関教育委員

今回の支援プランは、とても良いものだと思っている。5ページについては、他ページとの文言の整合が取れていないところもあるが、18ページの「すべての子どもに寄り添う支援」というのは、「生きていく力」になるものと考えている。今までは不登校対策に視点を置いていたものが、成果目標にある内容に変わり、その志が大切だと思う。それに対して「上田の教育はこんなところが良い」という上田モデルをつくっていくことが大事だと考える。不安や悩みに気づいてくれる学校の先生や地域の人などが支えになると思うが、市長は上田市の教育として、「すべての子どもに寄り添う支援」をどのように考えているか、お聞きしたい。

●土屋市長

教育支援プランの基本施策4の部分について、学校生活の中でも人それぞれ不安や悩みを抱えていると思う。先生方も多忙な中で、どこまで寄り添えるかという事もあるが、担任の先生が子どもたちの表情や関わりの様子を見ながら、子どもたちの変化などに気づいて声を掛けることによって、支えられていると感じられるかもしれないと思う。先生方に頼る部分も多くあるが、子どもたちに寄り添う姿が大事なことだと考えている。

●峯村教育長

「心に寄り添う」ということは非常に難しいことではあるが、教員の資質として持ち備えていないと、学校で子どもたちと向き合っていられないと思う。言い換えると「気配り・心配り」ということで、それができる教員であり、さらに深めていくことができるような教員であって欲しいと考える。教員としての自己研鑽という部分かと思っている。

また、学校内での係分担だけに頼ることなく、学校の全職員をあげて、一人の子どものことを考えられるような体制ができないと、問題の解決が進まないものと考えている。揺れ動く時期の子どもたちの心をつぶさに感じられるような、心のキャパシティの大きな教員になってほしい。

●横関教育委員

悩みに寄り添える教育をしていてほしいと思う。私たちも地域のものとして、いち早く気づくことが大事だと思っている。今回の教育大綱と支援プランについて、多くの皆さんに情報共有できるように周知し、子どもを真ん中にしてみんなで「上田市教育」に取り組んで行かれるよう、広報活動にも努めてもらいたいと思う。

また、市長には是非とも学校現場に来てもらい、先生方と子どもたちの頑張っている姿や、教育も「主体的、対話的な深い学び」に変わってきていて、地域の課題を子どもたちで話し合う活動などを見て、子どもたちに「どんなまちにしたい」など聞いてもらえればと思う。

●綿谷教育委員

コロナ禍の影響は大きく、国や地方の財政面も厳しくなっている中では、子どもたちの成長に期待する面も多くあり、これからの地域を担ってもらうためには教育が重要になってくると思っている。色んな産業について、事業再構築していくためには、子どもたちの考える力、生き抜く力

が大事になってくる。そのためにも、子どもたちの成長に合わせて、自分で考え、自分で行動する人間づくりをしていかないと、上田市の発展がなくなってしまうと思うので、令和3年度からの支援プランを力強く推進してもらいたい。

●柳原政策企画部長

今後、指摘をいただいた部分の修正を加え、それぞれ今年度中の成案策定を進めさせていただきます。

(3) 令和3年度当初予算と重点施策について

●土屋市長

資料3により説明<令和3年度当初予算の概要について>

●吉澤上田市政策研究センター長

資料4により説明<上田市スマートシティ化推進計画の概要について>

●柳原政策企画部長

ただ今の説明につきまして、御質問や御意見がありましたら、よろしく願います。

●北沢教育委員

資料3のうち、「クラインガルテン管理運営事業」と「テレワーク拠点整備事業」について、これらは新規事業ということで、上田市にとってどういう目的で進めるのか、市長にお聞きしたい。

●土屋市長

クラインガルテン事業については、殿城地区の「稲倉棚田」で農業体験できるよう、農園付き宿泊所を整備して運営する事業であり、自然環境や農業に興味・関心ある方に農業体験をしてもらい、その先には上田地域に定住していただくということを目的としている。

テレワーク事業は、リサーチパーク内にある「上田市技術研修センター」に手を加え、その場で地域の方でも都会の方でもテレワークできる環境を整備するもので、この地域への家族での移住・定住を考えてもらえればと考えている。

●北沢教育委員

ぜひ、その方向で進めてもらえればと思う。

●森田教育委員

スマートシティ化推進計画について、「情報システムの標準化・最適化」の個別施策「クラウドサービスなどの利用促進」の関係で、教育現場でもGIGAスクールによりデータの共有化や編集などの柔軟性を持たせるため、このクラウド化が大きなキーポイントになってくると思う。現段階での進め方、スケジュール感をお聞きしたい。

●吉澤上田市政策研究センター長

クラウドサービスについては、現在、長野県が共同化でやっという動きも出てきてい

るところで、住民基本台帳システムについては、今年度から単独クラウド化を実施している。今後は県の動向や国の指針等を踏まえながら、順次、進めていくということを基本的な考え方としている。

●森田教育委員

クラウドサービスが取り込まれていない状況の中では、教育現場でも、現状のサーバを利用して進めていく方針になるのか。

●吉澤上田市政策研究センター長

クラウドの使用に関しては、審議会である地域情報化推進委員会でも議論となったが、自前でシステムを持っているほうが良いか、クラウドとするかについて、危機管理面からも、どちらのほうが迅速に対応できるかなどを見極めたうえで検討すべきとの意見も出ている。現段階では、どの分野で何年度までにといったスケジュールリングまではできていないが、今後、危機管理上の視点なども加えながら、実施に向けた検討を進めていきたい。

●北沢教育委員

全体的には、趣旨や目的、方針や内容には異論なく、素晴らしい構想だと思う。気になる点は、市民にとっての利便性やサービスの向上なのか、行政としてのものか、それとも両方か、表や図を見ても色々な捉え方があるように思える。方向性の中にある「課題オリエンテッド」や、スモールスタートなどの考え方は好感が持てる。しかし、素晴らしいことばかりではないと思うが、担当として課題をどう考え、課題があるとしたらどのように対応していくのか、お聞きしたい。

●吉澤上田市政策研究センター長

一番の課題は、「ICT の利用機会の拡大、デジタルデバイド対策」のところにもあるように、デジタル的なやり取りが基本となっていく中で、高齢の方や障がいのある方など、デジタル機器を使いこなせない方も相当数いると思うので、配慮しながら計画を進めて行くことが課題だと認識している。

広範囲にわたる計画となっていることもあり、パブリックコメントでは市民の方から「優先順位をつけること」や「地域課題を重視すること」などの指摘もあった。最先端技術の導入を検討する先進地では、大手の企業が実証実験に入っても引き上げてしまうなど、地域のプラスになっていないケースもあると聞いている。上田市では「地域に根差した計画づくり」ということで、関係団体や企業などからのニーズを踏まえ、基本方針③に「スマートシティ化への挑戦と転換」を掲げたように、思いのある企業の方々と一緒になって積み上げていきたいと考えている。

●北沢教育委員

浮かんでくる課題に対しては、それぞれの部署で取り組む内容と思うが、市長部局や政策部門で全体を一元的に管理していくのか。また、各部署でデジタル化することにより予算規模が大きくなると思うが、それに対して費用対効果があると考えているかの2点、お聞きしたい。

●吉澤上田市政策研究センター長

計画を作る段階において、個別施策の基本方針①と②については、総務部が中心となって検討してきた経過がある。③については政策研究センターのほうで取りまとめている。今後は全体を通して、副市長をトップとして総務部長が委員長となる「上田市情報化推進委員会」の

場を使い、総合調整を図りながら進めていくことを想定している。事業選定や予算についても、限られた財源を有効活用しながら、必要のあるものから取り組むという考え方で進めていく予定としている。

●綿谷教育委員

計画は素晴らしい内容だと思う。できるところから実証実験して進めて行ってほしい。今後、5年や10年先には、特定の人だけでなく、市民全員が使えるような形とするため、課題を見つけながら対応していってもらいたいと思う。この計画が実現できると、上田地域がより良い場所となり、定住・定着につながっていくと思う。他地域に後れを取らないよう、上田市をPRできるような情報発信して行ってほしい。子どもたちが安心して暮らすためには、スマートシティは重要な課題だと考えている。高齢者にとっても、バスのロケーションシステムの導入や病院での活用などが進めば、とても良いことだと思うので、市民サービスとして重要なところから取り組んでもらいたい。

●横関教育委員

計画の概要を見た率直な意見としては、誰のための改革なのかと感じた。私たちの生活が便利になると思うが、それと「生活の質」が上がることは違うものと考えている。人でなければできないこともあり、教育に関しても、GIGAスクール構想が始まったからといって人が関与しないことは無い。ICT 機器を使って学びを深めることも大事だが、本来の学びとは、自分で課題を見つけ、考え、答えを出していくこと。それが「深い学び」になると思う。スマートシティ化計画についても、市民にとって本当に必要なのか、精査しながら進めていくことが重要と考える。生活弱者の目線に立って、相手の立場で考えることが大切で、そのような姿勢が市民に分かるよう進めてもらえればと思う。

基本施策「ICT を活用した教育・子育てサービスの充実」にもあるが、子育てに関する質問に対応するAIチャットボットが導入されたとの新聞記事を見たときには、「それで良いのか」と疑問に思うところもあった。やはり、人でなければできないことではないか。上田の良いところは人の良さでもあると思う。ICT は上手に使いながらも、どう人と人がつながっていくのかなど考えた政策になってほしいと思う。メリット・デメリットを検証し、市民の声を聞きながら施策を進めていただくことが大事であり、生活弱者の目線を忘れず、「人とのかつなかりを大切に」考えてもらいたいと思うが、市長はどのように考えているか。

●土屋市長

個々を大切に考えるのは当然のことであり、ハンディを持つ方や自由が利かない方などに対しても、AI・IoT や最先端技術により有効活用できることは沢山あると思う。手段としてICT 技術を活用することで、上田市が持続可能な社会を創るため、地域に住む人たちが「生きる力」を発揮することが大事であるものと考えている。そういった視点を持ちながらも、最先端技術が必要な時代が必ず来るので、一緒に取り組んでいくために計画を策定している。それぞれの分野にある課題に対し、しっかり取り組まなければいけないと思っている。

●横関教育委員

計画の基本理念にも書かれているように、「誰一人取り残さない利用者ファーストに立ったデジタル先進地を目指します」という部分が、多くの皆さんに伝わるよう発信してもらえたらと思う。

●柳原政策企画部長

ありがとうございました。さまざまな御意見を頂戴いたしました。本日の御意見等を参考とさせていただきます、進めてまいりたいと考えております。

5 その他

●柳原政策企画部長

次回会議につきまして、教育委員会内での議題調整や新庁舎への移転作業などもありますことから、年度が変わって6月以降に開催することとして御提案をさせていただきます。

詳細日程につきましては、日を改めて御連絡したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

それでは、本日の会議事項は以上となります。教育支援プランにつきましては最終調整をさせていただきますので、よろしく願いいたします。これにて閉会させていただきます。誠にありがとうございました。